

「宍粟郡役所文書」 (その三)

宍粟郡役所文書の産業関係史料としては、林野事業に関する文書が注目されます。

江戸時代以来主に燃料として利用されてきた林野は、明治後半期には県域各地でその多くがはげ山となり、このため、こうした荒廃が土砂崩れなどの地域における災害の引き金になっていいると考えられていました。



明治37年ごろの山崎町。中央付近は山崎小学校、奥に見えるのは城下地区

特に宍粟郡は郡域全体の9割が林野であるとき、林業と林野の保護育成は地域や県にとって早急な課題となっていました。

そこで郡と県は、各村で所有している山地の林野を財産として申告させ、その処分と利用について郡や県の認可を得させるようにしました。

これで村々は、燃料・炭用・焼き畑などのために立木を伐採・売却することや、その土地を売却することなどが勝手にできなくなりました。

その反面、事業としての植林や材木・山地の売却は認めており、村々はこうした仕組みを利用し、公費や地域の学校建設・教育費を捻出することができました。

また、史料の中には農協の前身となった組織に関する史料が含まれています。それは購買販売信用組合の設立認可に関する文書です。

この組織は産業組合と呼ばれていて、三つの組合から構成されます。一つは販売組合で、生産物の共同出荷をして販売を効率化する組織です。二つ目は購買組合で、肥料・生活資材などを共同購入によって購入価格を安くする狙いがありました。これは現在の「生協」にもつながる性格を持ちます。三つ目は信用組合で、組合員に資金を融通したり貯蓄したりする銀行のことです。

これらの組合は明治三十三年(二九〇〇)に法制化されますが、組合結成数は伸びず、宍粟郡に至ってはこの時期の設立が確認できませんでした。産業組合は右の三組合を同時に設立するものでしたが、その経費が出せずに、設立に踏み切れない村が多かったのです。

そこで、明治四十二年(一九〇九)に産業組合法が改正され、複数の組合を兼ねて、一つの組合として申請できるようにになりました。この法律改正以降、宍粟郡でも三組合を兼ねた購買販売信用組合を設立する村が現れます。

以上のように、宍粟郡役所文書は時代ごとの行政の状況を反映した文書が残されています。このほかにも、トピックとなりうる史料はあり、まだまだ調べることの多い史料群です。

兵庫県企画県民部文書課嘱託 伏谷 聡



兵庫県公館内に保管されている宍粟郡役所文書。明治時代以降の地方行政や地方の暮らしを調べる上で貴重な資料です

編集後記

今年も残すところ後わずかとなりました。月日の経つのは早いものですね。子どものころはもっと一年を長く感じていたように思います。それは、新たな体験や発見の連続で新鮮な毎日を過ごしていた証だとかで読んだような気がします。大人となった今でも、子どものころと変わらぬ出会いや発見があります。それでも時の経つのを早く感じるのは、やっぱり鈍感になっているせいなのかもしれません。何事にもスピード感を求められる時代。それでも時には立ち止まって周りを見渡す余裕を持ちたいと思います。これが来年の真の抱負であり「広報しそう」でもほっこりした話題を届けられたいと思います。どうかよいお年を。

眞

広報しそう 12月号

平成28年12月15日発行(141号)

発行/宍粟市 編集/企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

☎0790-63-3000(代) FAX 0790-63-3061(代) ✉info@city.shiso.lg.jp 🌐http://www.city.shiso.lg.jp